

■安達峰一郎 外交官・国際法学者。国際司法裁判所の所長として、“世界の良心”と称えられ、オランダで国葬となった。

あだちみねいちろう

戊辰戦争終・1869＝ 羽前国村山郡高榎村(山形県山辺町)で、安達久左衛門家の長男に生まれる。母はしう。

明治6年政変 1873＝ 4歳：

大久保暗殺・1878＝ 9歳：

・ ・ ・ ・ ・ 1880＝11歳：\_早くも、山辺小学校教員助手となるほどの英才ぶりで、

明治14年政変 1881＝12歳：

新体詩抄・ ・ 1882＝13歳： 山形師範学校中学師範学予備科に入学、

秩父事件・ ・ 1884＝15歳：\_関山峠を越え、塩釜からイワシ運搬船で上京し、司法省法学校に入学(若槻礼次郎と同級生)。

国民之友始・1887＝18歳：\_卒業して、東京帝国大学法科大学仏法科に入学、  
\_国際法を中心に研鑽を積み、英語、フランス語、イタリア語を習得。

帝国憲法発布 1889＝20歳： 太宰治「走れメロス」を「ダモンとピチヤスとの交わり」として訳出、  
\_ここでも、恩師宮城浩蔵(明治大学の創設者の一人)の紹介で、お雇い外国人で法理学のボアソナードや国際法学者のアレッサンドロ・パテルノストロの通訳を担当するほどの才能を示し、とくにフランス語は、後年フランス人より美しいといわれるほどになる。

大本教・ ・ ・ 1892＝23歳： 卒業し、外務省に入省。高沢鏡子と結婚。

郡司千島探検 1893＝24歳： 条約改正取調委員。\_イタリア公使館勤務となり、外交官生活が始まる。

日清戦争始・1894＝25歳：

日清戦争終・1895＝26歳： 勲六等単光旭日章。

白馬会・ ・ ・ 1896＝27歳：

八幡製鉄始・1897＝28歳：\_\*フランス大使館勤務となる。早くも、ポルトガルからコマンドール・ド・ロドル・ド・ウィラシワサ勲章、イタリアから王冠三等勲章を授与されるほど、感謝される働きぶりで、以後も続々受勲、

ピノ国産化・1900＝31歳： 勲五等瑞宝章。

田中正造直訴 1901＝32歳： スペインからイザベル・ラ・カトリック星章付二等勲章。

教科書疑獄・1902＝33歳： フランスからレジオンドヌール勲章オフィシエ。

日露戦争始・1904＝35歳：\_10年ぶりに帰国するや、日露戦争に直面。

日露戦争終・1905＝36歳：\_国際法の知識と交渉時採用のフランス語の卓越した能力を買われ、日本全権小村寿太郎の随員としてポーツマス条約の草案作成にあたり、

韓国反日暴動 1907＝38歳： フランスからレジオンドヌール勲章コマンドール。\_その学識が認められて、法学博士号を授与される。

アソビ創刊・1908＝39歳： ロシアから神聖スタニスラス一等勲章。\_再び渡欧し、フランス大使館参事官となり、条約改正取調委員として、日仏通商航海条約をまとめ上げる。

韓国併合・ ・ 1910＝41歳： オーストリア・ハンガリー帝国から星章付二等勲章。フランスからレジオンドヌール勲章シュヴァリエ。

明治天皇没・1912＝43歳： 勲一等瑞宝章。

大正政変・ ・ 1913＝44歳： フランスからレジオンドヌール勲章グラントフィシエ。特命全権公使メキシコ駐在となるが、メキシコが革命動乱の真っ只中にあつたため、

第一次大戦始 1914＝45歳：

21ヶ条要求・1915＝46歳： 帰国し、東京で公使館業務を執務することになる。

民本主義・ ・ 1916＝47歳： ロシアから聖アンナー等勲章。中華民国から第一竜宝星勲章二等。

ロシア革命・1917＝48歳：\_\*特命全権公使ベルギー駐在を命じられ、シベリア鉄道を利用し、第一次大戦の戦乱の中、フランスのル・アープルの臨時日本公使館に到着。以後、戦後のヨーロッパ体制を巡って、見事な活躍が始まる。

ベルサイユ条約・1919＝50歳：\_パリ講和会議の全権随員(代表代理)となり、各種委員会に出席して活躍し、

大暴落・ ・ ・ 1920＝51歳：\_勲一等旭日大綬章。ヴェルサイユ講和条約実施委員になる。発足した国際連盟第1回総会の日本代表代理となり、常設国際司法裁判所の創設が議題に上ると、国際法の学識者として知られていたことから、常設国際司法裁判所規程起草委員会の委員に任命され、諸問題について論陣を展開、基盤を確立して行く。

原敬首相暗殺 1921＝52歳： 大使館に格上げされ、ベルギー大使。\_国際連盟第2回総会日本代表。以後、第10回総会まで連続。

水平社結成・1922＝53歳： ベルギーからレオポール勲章グランドクロス。\_国際連盟国際紛争調停手続き研究委員会の議長となる。

関東大震災・1923＝54歳：\_第5回国際労働総会議長となる。

護憲三派圧勝 1924＝55歳：\_ハーグ国際法アカデミー教授、万国国際法学会の日本人初の正会員。「ジュネーブ議定書」では孤軍奮闘、国際連盟事務次長だった新渡戸稲造は、そのフランス語での説得を見て、'安達の舌は日本の宝'と絶賛。

治安維持法・1925＝56歳：\_帝国学士院会員。

円本時代始・1926＝57歳： ベルギーからグラン・クロア・クーロンヌ勲章。ルーマニアからルーマニア星勲章グランドクロス。エストニアから第一種第一級自由十字章。

金融恐慌・ ・ 1927＝58歳： ルーベン大学法学部名誉教授。\_在フランス駐日大使、ヴェルサイユ講和条約実施委員長となる。

共産党事件・1928＝59歳：\_パリ不戦条約締結に参与。

世界恐慌・ ・ 1929＝60歳： セルビア・クロアチア・スロベニアから聖サヴァ勲章グランドクロス。\_マドリッドでの国際連盟理事会議長となる。ハーグ対独賠償会議日本代表となった際、フランスとイギリスが激しく対立、調停の依頼を受け、日本流の茶会を開いて両国代表を招き和解させ会議を成功に導く。

海軍軍縮条約 1930＝61歳：\_フランスからレジオンドヌール勲章グランクロア。ルクセンブルクからクーロンヌ・ド・シェーヌ勲章グランドクロアまで、実に12カ国から第1級の勲章が贈られ、なかには、新たに勲章制度を創り、その第1号を贈った国もあった。この間の正義と公平にもとづく識見は世界各国からの厚い信頼と尊敬を得てきたことから、常設国際司法裁判所2期目の判事選挙で最高得票で当選、任期は9年。判事としては日本人として2人目。

満州事変・ ・ 1931＝62歳： アメリカ国際法協会名誉会員。\*常設国際司法裁判所で、アジア系として初めて、第4代所長となる。就任早々、日本が満州事変を起こして国際連盟を脱退、第2回総会以来連続してきた日本代表の役も終わり、

五一五事件・1932＝63歳： アメリカ学術科学アカデミー名誉会員。\_斎藤実首相宛に書簡を送ったのを始め、所長として裁判によって、この事変を解決するよう日本の歴代総理に訴えるも叶わず、戦火は拡大。

国際連盟脱退 1933＝64歳： オランダ科学協会会員。

帝人疑獄事件 1934＝65歳：\_勲一等旭日桐花大綬章。3年の任期を終え、平判事になったが、日本の国際連盟脱退問題の悩みから体調を崩し、ベルギーのスパで重い心臓病を発症。アムステルダム病院で没した。オランダ国はその死を悼み、特に国葬の礼をとるべき旨を申し出、翌年、オランダ国と常設国際司法裁判所の合同葬としてハーグの平和宮で執り行われ、国際平和に尽力した多大の功績と榮譽を称えた。